

# 【登山シーズンと動植物、文化財など】

令和4年12月1日 K. S

## ●シーズンと動植物

シーズン(登山適期)は、他の低山の例にもれず、春と秋である。山開きは毎年5月8日と決まっている。

春の連休の頃は、イワウチワ(トクワカソウ?)が全山咲き乱れ、谷には雪渓が残り、低山ながら、花を愛でる山登りの楽しさとアルペン的な雰囲気味わいながらの登山ができる。イワウチワはお堂より上部の登山道に沢山見られ、木島平側からはこの花を見るために毎年登山が企画されるようである。



夏は、登山可能だが蒸し暑く、登山道に草が生い茂っていることがあり、登山者を見ることは稀である。

秋は、ヒメコマツの緑と赤や黄色の紅葉が岩に映えてとてもきれいである。特に晩秋には山上から飯山盆地にかかる雲海が見られ、その上に浮かぶ北信五岳の山々が素晴らしく、まさに妙高山は「須弥山」のようである。

冬は、豪雪地帯なので、登山道のお堂から上は非常に危険で、登るとなると冬山装備と登攀具が必要となる。冬にこの尾根を登ったという記録はまだ聞かないが、別ルートからは登られている。

動物は、一般的な山の小動物の他に、クマ、シカ、カモシカ、などの大型動物や、今はほとんど見かけなくなった国内希少野生動物種のイヌワシが生息している。

植物は、イワウチワ(トクワカソウ?)の他、山頂付近にブナの原生林、岩場にはヒメコマツ、他にムラサキヤシオやタムシバの花を見ることができる。



また、地味ではあるが、不動岩などの岩陰には少ないながらもヒカリゴケを観ることもできる。ヒカリゴケは環境省レッドリストの準絶滅危惧種(NT)に指定されているので、周囲も含めて現状を保ち荒らさないでほしい。

## ●石仏など

### ○万仏山西国三十三観音像

江戸時代末期の弘化3年(1846年)に建立。福島神社横の林道分岐にある1番から始まり、万仏岩お堂横の33番まであり、千手観音像が多い。

石仏は旧道(本来の参道)沿いにあつたり、林道から離れた位置にあつたりするので、注意して歩かないと特に草が茂る夏は見落としやすい。



### ○岩龍窟内大日如来像と弘法大師像

江戸時代前期の元禄6年(1693年)に建立。お堂右手奥の薄暗い岩窟の中に置かれている。



### ○不動岩不動明王像

林道途中にある不動岩の上部に置かれているが、岩の下からは見えにくい位置にある。



### ○窓岩大日如来像

お堂からロープを伝って痩せ尾根を30分ほど登った所にある窓岩の下に置かれている。普通に登山道を辿って行くと、窓岩上の蟻の塔渡りを進んでしまうので気が付きにくい。



### ○万仏山南峰展望台講記念碑



万仏山山頂より南峰への登山道を辿り、南峰の少し先の大きく開けた展望台に置かれている。万仏講の信者(馬曲集落の方らしい)により建立されたと考えられるが、正面に山伏像が描かれ、側面に「昭和十年十一月十七日」、そして裏面に建立者名が記されている。

## ●福島棚田

飯山市瑞穂福島地区の棚田は「日本棚田百選」に選ばれている。この「百選」の棚田は、一般的に千曲川や北信五岳をバックにした風景が素晴らしい福島神社より上の棚田を指すが、福島集落に上る途中や、周囲にも見られ、集落自体が棚田の中にあるといっても過言ではない。



これらの棚田は、江戸時代に飯山藩の許可を得て開墾されたものであり、それとともに集落が形成されたため、福島集落を「福島新田」ということも多い。ここの棚田の特徴は、単なる段々状の水田ではなく、山中に転がっている自然石を積み上げて石垣にすることにより出来上がったものであり、全国的に見て、これだけの規模のものは珍しいということである。時期的にお奨めは、春の田植え後と秋の稲穂が金色に染まる頃である。菜の花祭りの頃はまだ耕作が始まっていない。

## ●阿弥陀堂

映画「阿弥陀堂だより」のセットをこの地区の人たちは大切に保存し観光資源として活用している。エキストラとして出演した地元民も多い。



## ●その他

○福島集の有志、および飯山市公民館(瑞穂公民館)、市の学習支援課の編集により、冊子「福島の里と万仏山」が平成27年に発刊された。一冊300円で頒布されており、問い合わせはふるさと館(0269-67-2030)または瑞穂地区活性化センター(0269-65-2501)まで。

○駐車場については、福島神社横の休憩舎「さんべ」横、阿弥陀堂入口、林道終点手前(スペースのみ)などがあるが、春のゴールデンウィークの間は菜の花祭りの関係で観光客が多く、神社から先は通行止めとなる。